

2025(令和 7)年度 エリザベト音楽大学事業計画

教職員の連携による教育の質保証の確立

2024 年度はコロナ禍からの完全な回復で学生の活躍の機会が積極的に設けられ、学内行事での学生同士の交流が増し、国際交流においては韓国（済州島）で吹奏楽公演が行われました。11 月に行われた外部認証評価調査については、修正すべき幾つかの指摘はあったものの、大学運営の根幹にかかわる問題はなく受審を終えました。

2024 年度においても従来どおりイエズス会教育理念及び行動標語「音楽をとおして 私が変わり 世界を良くする人になる」に基づく大学教育の展開と円滑な運営に努めてまいりました。2022 年度入学生から適用が開始された新カリキュラムについては、その運用にあたり常に改善を重ねており、最後の旧カリキュラムの学生が卒業する 2025 年 3 月には、完全に新カリキュラムに切り替わりました。学生募集においては、きめ細かな奨学金制度を実施するなどの学生獲得に向けた各種方策を講じた結果、前年度に比べ 3 割強多い新入学生を迎えることができました。

2025 年度においては、新カリキュラムの完成年度となります。そのために各種調査・検証を行い、学修成果を可視化し、学修成果及び学生満足度の向上を目指す教育を実現します。エリザベト音楽大学合唱団《被爆 80 年イタリア・ドイツ公演》(7/30～8/8)は、広島市派遣芸術団にも位置付けられ、2025 年度地域連携事業の中心となります。その他数多くの国際及び地元地域の連携事業は、本学の芸術教育の豊かな実りにつながることが期待されます。

学生募集及び広報活動をより強化することについて、教職員が連携・協力して実行します。さらに 4 月より広島 FM との連携によるラジオ番組「エリザベト音楽大学 presents ミューズの扉」(毎週日曜日、18 時 30 分～18 時 55 分)を開始することは、本学の教育の展開及び広報活動として新しい一步を踏み出すことになります。

(1) 経営面の計画

1) 建学の精神、教育理念の実現のために

- ① 研修会・種々の行事他をとおしてイエズス会教育精神を学ぶ。
- ② 学生・教職員がアジアのイエズス会学校の状況を知り、慈善演奏会をとおして交流を行う。
- ③ カトリック大学連盟加盟大学との連携をとおして、建学の精神、教育理念の実現を目指す。

2) 大学教育、学生募集への取組

- ① 教員の研究成果の発表機会を増やし、学内外に幅広くアピールする。
- ② 大学の教育内容、学生の活動、教員の研究成果等について広く発信するとともに、

多種多様な給付奨学金の広報に努め、学生募集活動に効果的に活用する。

- ③ 前年度に比べ3割強多い学部入学生を確保した2025年度入学試験の学生募集活動の分析を行い、2026年度入学試験の募集活動に生かす。

3) 長期計画に沿った将来計画の策定

- ① 施設・設備補修計画に基づき年度毎の補修を実施する。
- ② 現長期計画（2016～2025）の最終年度として成果と課題を整理し、次期中期計画（2026～2030）について、学内各所から意見を集約して、決定する。

4) 国際交流の推進

- ① 国際情勢の変化に留意して、国際交流事業及び学生の留学支援を充実させ、国内中心の内向きの学生の心を海外へと開く教育を試みる。
- ② エリザベト音楽大学合唱団《被爆80年イタリア・ドイツ公演》、ピアノ専攻生を対象とする《夏期ピアノ研修 in ミュンヘン》及びAJCU-AP会議（アジア・太平洋地区イエズス会大学学長会議、8月）のホスト校運営を通じて、学生をサポートし、教職員の国際連携業務の熟達につなげる。
- ③ 留学生入学試験においては志願者のレベル判断を慎重に行う。

5) 内部質保証体制の確立

- ① 私立学校法改正に基づく大学法人運営の変更事項を遺漏なく実施する。
- ② 内部質保証に向けた教学マネジメント体制を維持し、ガバナンス・コード〈第2版〉に基づく大学運営を行う。
- ③ 第4期認証評価受審に向けて、2024年度受審結果を踏まえた課題を改善し、次期（第4期）の認証評価基準に関する情報を入手する。

(2) 教学面の計画

1) 教学改革について

〔音楽学部〕

- ① 学部の全学年に新カリキュラムを適用する最初の年度となり、授業科目と履修プログラムに関する段階的な学びの検証を実施し、卒業後の進路決定に資するものになるようさらに改善する。
- ② 前年度、学部と大学院との連携が十分に行われなかった点について2025年度は、「学部の3つの履修プログラム」、「ソリスト奨学生」等、学部の特色を生かして連携を深める。
- ③ 入学試験内容が変更されたことによる影響について、2025年度入学生の学修状況をAP（アドミッション・ポリシー）に照らしつつ検証し、より相応しい入学試験のあり方を研究する。
- ④ 学生の学修及び学生生活等のデータは、従来どおり担当部署が収集・分析し、教学の会議と情報を共有し、大学運営及び広報活動に活用する。
- ⑤ 教職課程委員会による教職課程自己点検評価の最新版を完成させる。

《音楽文化学科》

- ① 音楽文化専修創作プログラムにメディアコンテンツに関する新しい領域を開設する。
- ② 入学志願者増へつながる体制を強化するために、各専修の学びの魅力を学外に幅広くアピールする機会を多面的に展開する。
- ③ 社会が大きく変化する中で、学生が音楽大学で学修を希望する分野の細目に変化しているために、学生のニーズに合わせたカリキュラム・授業内容の検討を行う。同時に、留学生・社会人等の受け入れ枠なども検討する。
- ④ 社会貢献活動として、あらゆる世代に音楽を楽しむ場を引き続き提供し、地域の音楽芸術の発展に貢献する。
- ⑤ ICT を教育活動に積極的に活用する。

《演奏学科》

- ① 本学教員の演奏研究活動の深さとレベルの高さを広く知ってもらい、入学志願者へもアピールできるように、教員の学内外での演奏活動を多面から支援する。
- ② 学生による海外での研修及び演奏活動が有意義なものとなるよう、準備段階から学生を支援する。演奏活動の目的や期待される成果を明確化するために、事前研修において異文化及び宗教理解についても十分な時間を費やす。
- ③ 学内での演奏会においては、教員が学生を支援するのは当然のこととし、学外での地域貢献活動としての演奏においても、学生の主体性を尊重しながら、活動が円滑に進むよう教員が協力してサポートする。

〔大学院〕

- ① オンライン等による留学生入学試験をより充実させ、志願者に便宜を図る。
- ② 大学院カリキュラム改訂に向けて、引き続き現行カリキュラム下での試行的取組を行い、その効果、課題について検討する。
- ③ 修士課程、博士後期課程ともに、学内外双方からの進学者増につなげるべく、近年の学生の実像を検討し、現行の入学試験課題、実施方法等について引き続き見直しを行う。
- ④ 著名な演奏家や研究者などを招き、被爆 80 年に相応しい公開講座あるいは公開レッスンを実施する。

2) 学生生活支援について

〔学生生活〕

- ① 学生の人間的成長と自立を促し、学生主催行事の実施に向けて支援をする。
- ② 学生の情報を共有するために、学生生活担当者による連絡会を定期的を開催する。
- ③ 悩みを抱えた学生、学修不振者、障がいをもった学生について、面接等で状況を把握し、その内容により学事部学生生活、学生生活主幹、ホームルーム担任、レッスン担当者、学生相談担当、看護師等と連携して支援を進める。
- ④ 合理的配慮への理解を醸成し、配慮を必要とする学生への取組を各担当者との連携のもと行う。

- ⑤ 教職員が連携して指導・支援を行うことにより、退学者及び休学者の減少を目指す。

〔就職・進学サポート〕

- ① キャリアサポート委員会、キャリア支援室、学生生活センター室長、教養・教職主事、ホームルーム担任等が連携し、一人ひとりのニーズにあった支援を行う。教職を目指す学生については、教養・教職主事及び教職担当教員との連携を深める。
- ② 卒業後の進路決定を早めるために、1年次に進路希望調査を行い、3年次、4年次の全員面談の前に低学年の学生と進路について話せる機会を作る。日本学生支援機構奨学生（給付型、貸与型）には、特に早期から就業に対する意識を醸成する。
- ③ 就職した卒業生あるいは企業との接触機会を増やすことにより、就職活動の方法、就職試験対策等、就職活動をどのように進めるべきかを「キャリアサポートレター」等の情報発信を通じて具体的に示す。また就職試験合格に必要な技能、筆記、面接等のレベルをあげるために教職員ならびに外部講師との連携を図る。
- ④ 大学院進学希望者、留学希望者に対しても、的確な情報を届けられるように教員と連携をする。

3) 国内及び国際交流

〔国内外の交流〕

- ① 国内外のカトリック大学との連携・交流活動・事業を計画し、実行する。
- ② 学外で開催される各種行事での留学生の演奏活動を支援する。
- ③ ASEACCU 国際会議に学生を派遣する。
- ④ エリザベト音楽大学合唱団《被爆 80 年イタリア・ドイツ公演》及びピアノ専攻生を対象とする《夏期ピアノ研修 in ミュンヘン》でのサポートを行う。
- ⑤ 2025 年度 AJCU-AP 会議の会場運営を行う。

〔国外交流協定校との交流事業〕

- ① 交流協定大学との対話の機会を増やし、交流事業を実現する。
- ② クリスマスコンサートの目的をアジアのイエズス会学校に対する支援として実現する。
- ③ 四川音楽学院及びフィリピンの大学と継続的な交流を続ける。

4) 学生募集活動及び広報活動について

〔学生募集活動について〕

- ① 多くの入学者を確保できた 2024 年度の学生募集活動の成果を丁寧分析し、各行事の内容の改善を図るとともに、効果の見られた募集活動に資源の投入を行う。
- ② 教職員からの志願者情報の収集を継続的に行う。高校訪問、出前授業、音楽指導者とのコンタクト、進学関連業者による高校内での進路ガイダンス、各種音楽セミナー、コンクール、演奏会、ネット媒体などから情報を収集し、募集活動に活用する。
- ③ 2022 年度より始めた大学広報代行業務の委託員（以下「エリアパートナー」）への積極的な働きかけにより、エリアパートナーとの連携をより深め具体的な動きに結びつける。また、新しい地域のエリアパートナーについても随時増員し、広範囲での

継続的な学生募集業務を展開する。

- ④ オープンキャンパスを、夏（6月・7月・8月）、秋、翌春（スプリングフェスティバル）の予定で実施する。2024年度からの新たな入学試験制度に伴う「入学準備学習（副科ピアノ、楽典・ソルフェージュなど）」及び新たな奨学金「オーケストラ奨学金」「特待奨学金」について一層の周知を図る。各専修専攻の教員と連携してオープンキャンパスのプログラムをより魅力的なものにし、幅広い年代の志願者を獲得する。
- ⑤ 前年度は「進学ガイダンス」としていた県外での募集企画を、音楽に興味を持つ中学生・高校生が参加しやすくするように「体験レッスン・個別相談&ミニコンサート」に名称を変更する。
- ⑥ 潜在的に音大進学者の存在が期待できる高校・地域には、出前授業・出前レッスンを軸にアプローチする。特に音楽系部活動強豪校、音楽科・音楽コース設置校、教育提携協定校での出前授業・出前レッスンを積極的に提案し、実施する。
- ⑦ 受験生等の要望に応じて、学内見学、ホール体験、進学相談（対面及びリモート）を随時通年で対応する。
- ⑧ 各地の同窓会との連携を深め、地域の情報をより深く数多く収集する。

〔広報活動について〕

- ① 広報誌（大学案内、エリザベトアイ他）の制作と配布、各種 SNS（Facebook、LINE@、インスタグラム）及び大学 WEB サイトでの情報発信により、継続的に大学の魅力を伝える。
- ② マスメディア（FM ラジオ放送）を活用した大学の魅力発信にも取り組む。
- ③ 学内関係者への大学案内及び入学試験説明会は前年同様 4 月に行い、年度初めから鮮度の高い情報を共有・発信する。
- ④ 学生募集につながる外部団体（広島県合唱連盟、全日本ピアノ指導者協会、全日本吹奏楽連盟他）との関係強化により大学の魅力発信と情報収集を図る。
- ⑤ 広島県・市、東広島市、教育ネットワーク中国等各種団体の主催イベントに協力する（県立美術館コンサート、市役所コンサート、シャレオ大学生コンサート他）。
- ⑥ 在学生と連携した情報発信の取組として、エリザベト音楽大学 PR 動画コンテストを実施する。キャンパスリポーター他学生による大学情報の発信を支援する。

5) 教職員研修(SD・FD)について

- ① 春のオリエンテーション期間には「ゴーセンス記念講演」、秋期にも SD・FD 研修会を実施する。
- ② 内部質保証に向けた教学マネジメント体制を維持するために制定したガバナンス・コード〈第2版〉を教職員が理解するための機会を提供し、それに基づく大学運営を実践する。
- ③ 第4期認証評価受審に向けて、2024年度受審結果を踏まえた課題を改善し、次期（第4期）の認証評価基準に関する情報を入手する。
- ④ 日本私立大学協会中四国支部、教育ネットワーク中国等の機関を活用し、他大学の同業務の職員との関係構築を図り、視野を広める。

6) 演奏活動

- ① 教職員及び学生が一致して各種演奏会の成功を目指す。
- ② 広島県の被爆 80 年に相応しいプログラムとして定期演奏会ではモーツァルト作曲〈レクイエム〉を演奏する。指揮者にはモーツァルト研究に定評のある鈴木優人氏を迎える。
- ③ 企画・広報室との連携をより密にして、演奏会でエリザベト音楽大学の魅力を発信するよう努める。
- ④ 同窓会支部等の協力による「エリザベトコンサート」を松江・呉・宮崎の 3 か所で開催する。大学教員や学生の演奏を披露し、エリザベト音楽大学の存在とその魅力を各地域の方々に広くアピールする。

【2025 年度エリザベト音楽大学コンサートスケジュール】

日 程	演奏会名 ・ 行事名 ・ 会場 ・ 出演者
4/5 (土)	エリザベト音楽大学×広島交響楽団 協演シリーズ Vol. 4 (セシリアホール) 指揮：栗辻総 ピアノ：中谷政文 テノール：升島唯博 トロンボーン：若狭和良 管弦楽：広島交響楽団
5/31 (土)	エリザベトコンサート in 松江 (プラバホール) 共催：同窓会島根支部
6/20 (金)	エリザベトコンサート in 呉 (呉市民ホール) 協力：海上自衛隊呉音楽隊、同窓会呉支部
6/29 (日)	エリザベト音楽大学コンサートシリーズ I (セシリアホール) 「スピリチュアルコンサート」 共催：(公社) 日本産業退職者協会広島支部 (予定) トマシュ・リッテル フォルテピアノリサイタル
9/23 (火祝)	エリザベトコンサート in 宮崎 (アイザックスターンホール) 共催：同窓会宮崎支部
11/1 (土)	第 84 回定期演奏会 (セシリアホール) モーツァルト：レクイエム ほか。 声楽ソロ：オーディションによる選抜学生 指揮：鈴木優人 演奏：エリザベト音楽大学合唱団・交響楽団
12/6 (土)	チャリティークリスマスコンサート (セシリアホール) オーケストラによるシネマミュージック ほか 指揮：松元宏康 ほか 演奏：エリザベト音楽大学合唱団・交響楽団 合唱委嘱作品披露 (作曲家・本学准教授：川上 統)
12/19 (金)	エリザベト音楽大学コンサートシリーズ II (セシリアホール予定) ヤン・イラーチェク・フォン・アルニン (客員教授、ピアノ)

※その他大学院新人演奏会、卒業研究発表・演奏会、エスポワール新人演奏会他を予定

(3) 管理面の計画

1) 施設設備改修と建物長期計画について

- ① 建物の長期更新計画に基づき計画的な施設設備の改修を行う。
- ② 新たな中期計画を踏まえ、建物長期計画の見直しを行う。

2) 委託業務(清掃、寮管理、西条管理、その他)について

- ① 業務内容の検証及び再検討を継続して行う。

3) 西条キャンパスの将来計画(土地、建物、設備)について

- ① 西条キャンパスのなお一層の活用を図り、在り方については、幟町キャンパス校舎建替と合わせて検討する。

4) 女子学生寮(セシリアホーム)の管理運営について

- ① 「学生寮セシリアホーム規則」に則り安心・安全な寮生活について徹底するとともに、実態の確認を行いながら改善点を見つけ、指導を徹底して、寮生活の質の向上を図る。
- ② 委託業者による寮監との連携を行うことにより、寮生活全体の充実を図る。
- ③ 寮食の食べ残し等の無駄が生じないように、欠食表を日々チェックし、無断欠食が多い寮生には個人的に指導をする。それでも無断欠食がなくなる寮生には、学生生活センター室長と学部長が面談をして指導をする。

5) 付属音楽園・エクステンションセンター事業について

- ① 体験会の開催、園生演奏会等をととして、園生を増やす取組を継続する。
- ② 音楽園と大学の連携を深め、大学に入学する園生を増やす道筋を構築する。
- ③ 教員による依頼講座を含め、受講生が見込めるエクステンションセンター講座を企画する。

6) 財務について

- ① 1号館(セシリアホール)及び本館の建替(あるいは大規模改修)に備え、基本金積立の原資の確保に努める。
- ② 経常収支差額の確保のため、教育活動収支における赤字の削減を図る。

以上